

「安心安全な教育環境のための 少人数学級を求める意見書」 全会一致で採択



意見書では、新型コロナ対策として、現在の学級編成基準では、児童・生徒間の十分な距離を確保することが困難であると指摘。新型コロナ終息後も感染症対策と子どもたちの成長と学びの保障を両立していくために、義務標準法を改正し、早急に義務教育における30人以下の学級編成が可能となるよう、教員定数の充実と教室確保を国の責任で行うよう、強く求めています。

たいら県議の発言「全国に先駆けて、鹿児島県議会で意見書が採択された意義は大きい」と満面の笑顔で答えました。

議案、請願・陳情、意見書に対する各会派の態度

○賛成・採択 ×反対・不採択 ▲継続 ■棄権		共産	自民	県民 連合	公明	無所属			議決 結果
						A	B	C	
議案	令和2年度県一般会計補正予算ほか13件の議案								全会一致 可決
	行政手続きにおけるマイナンバーの利用等に関する法律施行条例の一部を改正する条例制定の件	×	○	○	○	○	○	○	可決
主な 請願・ 陳情	重度心身障害者医療費助成制度の現物給付(窓口無料)をもとめることについて	○	▲	○	○	▲	○	○	継続
	新型コロナ感染拡大による介護事業所への財政支援の一部を利用者負担としないことを国に求める意見書提出について	○	○	○	▲	○	○	○	採択
	肝炎対策推進に関する意見書採択の陳情								全会一致 採択
	誰もが平等に安心して暮らせる鹿児島づくりに関する陳情(1項)	○	▲	○	▲	▲	○	○	継続
	伊佐市への新設特別支援学校設置についての陳情書	○	▲	○	▲	▲	○	▲	継続
	鹿児島県議会議員の政務活動費の領収書等の議会HPでの公開等を求める陳情	○	▲	○	○	○	○	○	継続
主な 意見書	安心安全な教育環境のための少人数学級を求める意見書(文教警察委員会)								全会一致 採択
	介護サービス事業所の人員基準等の臨時的な取扱いにおける利用者負担の見直し及び介護事業所への財政支援の強化を求める意見書(環境厚生委員会)	○	○	○	■	○	○	○	採択
	肝炎対策推進に関する意見書(環境厚生委員会)								全会一致 採択
	サツマイモ基腐病対策の早期確立に関する意見書(産業観光経済委員会)								全会一致 採択
	「原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法」の期限延長を求める意見書(自民党会派)	×	○	○	○	○	○	○	採択
小規模事業者に対する支援及び支援体制の拡充・強化に関する意見書(自民党会派)								全会一致 採択	



たいら行雄

県議会
ニュース

●発行/日本共産党鹿児島県議団 2020年秋号(No.9)
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
TEL/FAX 099-286-3977
E-mail: kengidan@jcp-kagoshima.com




ホームページ Facebook

9月議会報告

9月14日から10月7日の日程で行われた9月議会でのたいら行雄県議の取り組みをお知らせします。ご意見・ご要望をお聞かせください。

たいら行雄県議の ごあいさつ

新型コロナウイルスが私たちの生活を一変しました。そして、その影響は、飲食業や宿泊業などを中心に、すべての業種に及んでおり、県内の雇用と経済も深刻な状況に置かれています。

私はこれまでの議会において『県民の生命と暮らしを守る』ことを最優先に取り組んで参りました。そして、これから冬場を迎えるにあたって、感染拡大をいかに抑えるかが重要な課題となります。

今後とも、県民の皆様の健康を守り、安心して暮らせる社会をめざして議会活動に頑張ってまいります。



一般質問を行うたいら行雄県議

たいら行雄県議の一般質問の内容

1. 知事の「脱原発」の考え方について

- ①「原子力安全・避難計画等防災専門委員会」について
- ②川内原発の20年延長及び3号機増設について
- ③県民投票の実施について

2. 馬毛島の問題について

- ①馬毛島の軍事基地化とFCLPの移設について
- ②現地調査の実施と対応について
- ③「地元」の範囲に対する知事の認識について
- ④ボーリング調査問題に関する知事の認識と見解について

3. 再生可能エネルギーについて

- ①マニフェストにおける再生可能エネルギーの導入促進について
- ②吹上浜沖巨大洋上風力発電の建設計画について

4. 奄美大島嘉徳海岸の護岸工事について

- ①工事の概要と着工の時期について
- ②護岸工事による弊害について

- ③総合的に判断したうえで、県の新たな対応を求めることについて

5. 新型コロナウイルス感染症について

- ①本県におけるPCR検査の大幅な拡大に関する具体的計画について
- ②離島への感染拡大防止のための水際対策について

6. 高すぎる国保税の引き下げについて

- ①国保税が払えない世帯への保険証の発行について
- ②国保税の国庫負担の引き上げについて
- ③高い国保税の要因と改善について

7. 県内の災害対策について

- ①寄洲除去の進捗と予算の執行状況について
- ②河川の氾濫や決壊の防止対策について
- ③県内の内水氾濫の防止対策について
- ④7月豪雨災害に対する「なりわい再建補助金」制度の利用について

(質問・答弁はホームページに掲載しています)

無料生活相談を行っています。
毎週木曜日 午後2時～4時

電話099-296-9507
たいら行雄事務所
鹿児島市坂之上3-1-3

川内原発20年運転延長をやめ、

「脱原発」の実施を求める



今回、初めてとなる塩田知事への一般質問でした。私は、まず初めに知事の Manifesto にもとづいて、原発立地県の知事として、任期中に川内原発の20年延長運転の可否判断を求められることから、「脱原発」に向けた基本的考え方を質しました。中でも、20年延長運転の判断を左右する「原子力安全・避難計画等防災専門委員会」に「原子力政策

に批判的な学識経験者も入っていただく」との記述があることから、具体的にメンバー選考の方法などについて問いかけました。これに対し、塩田知事は「これから考える」との回答であったことから、「私も批判的な専門家を何人か知っているので提案して宜しいか」と問いかけたところ、塩田知事は、「はい、提案してください」と応じました。

したがって私は、早急に推薦メンバーを知事に提案し、原子力政策に批判的な専門委員会メンバーも加わった上で、川内原発の20年延長運転の可否判断のための「科学的検証」を徹底的に行うことを追求していきます。また、専門委員会の結論如何に関わらず、原発立地県として、県民の意思を問う「県民投票」を実施し、20年延長運転の判断を県民に委ねるよう求めて参ります。



奄美大島・嘉徳海岸の 護岸工事を見直して!

奄美大島瀬戸内町の嘉徳海岸は、現在まで人工物のない自然のままの砂浜であり、奄美大島・琉球列島でも珍しい存在です。嘉徳浜にはアオウミガメとアカウミガメが産卵のために上陸しているほか、2002年には、絶滅危惧種のウミガメである「オサガメ」の産卵が日本で唯一確認されています。現在、奄美諸島の「世界自然遺産登録」を目指している本県において、この嘉徳海岸は貴重な観光資源としての価値があり、嘉徳浜の自然環境を維持・管理し、将来に継承していくことが求められます。

ところが、県は2014年にこの地を襲った台風18号・19号の波浪による侵食が起こったことから、嘉徳住民の安全確保を目的に、幅180m、高さ6.5mの巨大な護岸を総額3億4千万円かけて建設する計画を進めています。しかしその後、海岸工学の専門家による調査において、「海岸侵食は全く進行していない」との報告も出されており、地元からは護岸工事に反対の声が上がり行政訴訟にまで発展しています。

私は、知事と関係部長に対して「地元の方々の根強い反対運動が起こっている中で、急いで工事を行うのではなく、今一度立ち止まって、この嘉徳海岸の価値を見直していただき、世界自然遺産の登録後も観光資源として残して行く方向を検討して欲しい」と求めましたが、関係部長は「まずは、住民の安全・安心を確保した上で、住民の方々との意見交換は引き続きさせていただきたい。」と述べるにとどまりました。

今後も、県内の大切な自然を守る観点から嘉徳海岸問題について取り組んで参ります。



軍事基地より自然豊かな馬毛島を残そう!

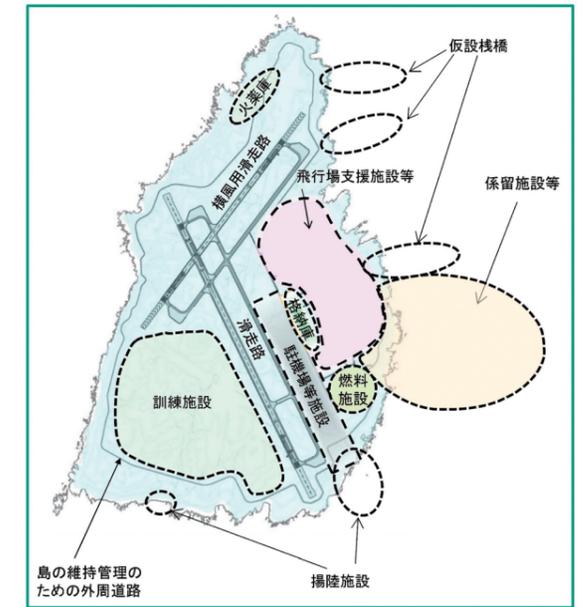
去る8月7日、防衛省より、防衛副大臣ほか2名が来鹿し、馬毛島を丸ごと自衛隊の軍事施設として使用する計画を説明しました。

その内容は、馬毛島に2本の滑走路、火薬庫、燃料施設や格納庫などの建設や、自衛隊のあらゆる訓練を含め、極めて重要な軍事基地として使用する計画が示されました。加えて、米空母艦載機離発着訓練・FCLPも恒常的に行われる計画であり、日米共同軍事訓練の拠点としても使用されます。このような軍事基地の建設を許してしまえば、馬毛島の自然や豊かな漁場が失われるばかりでなく、住民の健康被害や治安問題も危惧されており、地元住民からは大きな反対の声が上がっています。

そこで、塩田知事に、この問題をどのように考えるか見解を求めましたが、「地元の意見を聞いた上で判断する」との回答でした。しかしこれは、あまりにも無責任な回答であることから、改めて「地元の知事として、当事者意識を持つこと」を強く求めました。

この馬毛島の軍事基地化問題は、単に熊毛地域だけの問題ではなく、全県民の問題として捉える必要があり、次代を担う子どもたちや孫たちのためにも、阻止していくことが求められます。

馬毛島基地（仮称）施設配置案



実施する可能性のある主な自衛隊の訓練			
連続離発着訓練 (F-35, F-15, F-2等)	機転艦載機離発着訓練 (F-35B)	不整地着陸訓練 (C-130)	機動展開訓練 (F-35, F-15, F-2, KC-767, C-2等)
エアアクション艦載機訓練	離着水訓練及び救難訓練 (US-2)	水陸両用訓練 (AAV, エアアクション艦等)	救命生存訓練
ヘリコプター等からの展開訓練 (CH-47, V-22)	空挺降下訓練	災害対応訓練 (UH-60)	PAC-3機動展開訓練

防衛省ホームページより

新型コロナウイルス感染拡大防止、PCR検査の大幅な拡充を

いま、長引く新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの暮らしと経済が脅かされています。本県においては、これまで6件のクラスターが発生し、400名を超える陽性者が確認され、12名の方々の尊い命が失われました。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、これから冬場を迎えるも、インフルエンザの流行期と重なることが懸念されており、これまで以上に感染拡大に対する対策が求められるところです。

一方、経済への影響も、回復傾向ではありません

が、宿泊業や飲食業を中心に深刻な状況が続いています。現時点において、感染拡大を防止しつつ、本県経済を元の状態に戻していくことが、焦眉の課題といえますが、そのためには、PCR検査の大幅な拡充が必要と考え、県当局に求めました。

これに対し県当局から、「県民のいのちと暮らし最優先の立場から、PCR検査の拡充に努力する」との回答が示されました。

今後も引き続き、医療体制が脆弱な離島も含めて、感染防止のための徹底した対策を求めて参ります。